



第一種
尋常小學書方手本
第五學年用乙上
乙種

K130.721
2.2
5.6乙上a

K130.721

2.2

5.6乙上a



第五六學年用乙上乙種

小學書方手本

文部省

日出ヅル處ノ天子
書ヲ日没スル

第三卷上七

處ノ天子ニ致ス。
恙無キカ。

第三卷上七

神社佛閣拜殿。

第三卷之上乙

三

五重塔手水鉢。

第三卷之上乙

四

人はいさ心も知らずふる里は

花ぞ昔の香ににほひける。

第三巻の上七

五

来て見ればとも桜のみねつぎ

吉野初瀬の花の中やど。

第三巻の上七

六

御手紙拜見仕候来る二十日講話會
に御招き下され有り難く存じ候專
門家の講話を承る好機會と存じ候

第三書之上乙

へども當日はやむを得ざる用事こ
れ有り残念ながら参上致し難く作
右取りあへず御返事申し上候敬具

第三書之上乙

我が聯合艦隊が克ク勝ヲ制シテ前記ノ如キ
奇績ヲ收メ得タルモノハ一ニ天皇陛下ノ御稜
威ノ致ス所ニシテ固ヨリ人爲ノ能クスベキ
ニアラズ。殊ニ我が軍ノ損失死傷ノ僅少ナリ

シハ歴代神靈ノ加護ニ依ルモノト信仰ス
ルノ外ナク嚮ニ敵ニ對シ勇進敢戦シタ
ル麾下將卒モ皆此ノ成果ヲ見タルニ及ンデ
唯々感激ノ極言フ所ヲ知ラザルモノノ如シ。

手數都合取扱。

第二幕 乙上乙

十一

保存交換輕便。

第二幕 乙上乙

十二

吹く風をなこそその関と思へども
路もせにちる山極かな。

年を経し絲のみだれの苦しさに
衣のたてはほころびにけり。

頭。胸。腹。心。臟。肺。

十五

第三卷之七

腸。胃。筋。肉。關。節。

十六

第三卷之七

動物體色周圍。

保護警戒武器。

裾野。縦槍頂上。

集刊第25号

第三卷乙上乙

噴火口。銀明水。

燈臺本暗シ。
長者ノ萬燈ヨリモ貧女ノ一燈。

第三卷之上

旅ハ道連世ハ情。
思フ念力岩ヲモ通ス。

第三卷之上

濱邊沖合地引網。

鰻魚鰹魚鱸魚鯛蟹。

いづこの町も村も老若男女ひたすらに
大君を思ひ奉る赤心より祈らぬ神佛も
無く立てぬ願も言しまして二重橋外の廣

場には土にひれふし砂にぬかづきて夜とな
く晝となく祈り奉るもの幾千といふ数
を知らずゆいしき有様たとへんに物言し。

拜啓老父事本年は八十八歳に相成り候
につき来る九月二日の誕生日に御心安
き方々御招待いたし心ばかりの祝意

を表し度と存じ候間同日正午までに
御出で下さればははは大幸の至に存じ候
先は御案内まで此の如くに御座候

梁棟桁床敷居。

鴨居唐紙障子。

耕地整理。養蠶。養雞。

著實熱心。去華就實。

本殿の横手に一段ばかりの平地あり。
ここは我が村の公園ともいふべく御祭
の日宮角力の行はるるも此處なり村

芝居のもよほさるるも此處なり。此處
年の喜に人心の勇み立つ秋の空宮太
鼓のひびきは我等の胸ををどらしむ。

Q1301721
2.2
E.6.25.2

大大大大
正正正正
五五五五
年年年年
五三三三
月月月月
廿廿十七
三五八七
日日日日
翻翻發印
刻刻發印
行刷行刷



著作權所有

大正五年三月廿九日
文部省檢査濟

發賣所

東京市日本橋區新橋十六番地會社

第二種尋常小學教科書
手本第五六學年用乙之種

定價金參錢

著者兼發行所

文部省

翻刻發行所

大阪市南區難波菅原町千八百八十八番地ノ九
大阪書籍株式會社

印刷所

大阪市南區難波菅原町千八百八十八番地ノ九
大阪書籍株式會社

國定教科書共同販賣所

